

1) 仕様

機械直径	25.6mm
機械厚み	5.4mm
テンプ振動数	8振動/秒(28,800振動/時)
駆動方式	テンプ駆動方式
付加機構	

電源スイッチ
 秒針規正
 日付・曜日
 和洋切換
 日・曜修正(リュウズ回転式)

使用電池 (U. C. C. 354)

容量	150mAh
電圧	1.3V
大きさ	11.6φmm×4.2mm

2) 特長

- 安定した時間精度を有する高振動電子時計。
高振動(8振動)により、精度維持をはかった信頼性の高い時計です。
- 豊富な機能をもつ紳士用の電子時計です。
腕にフィットする優美なデザインと豊富な機能を兼ね備えた、実用性の高い時計です。

3) 分解・組立

分解は、図の番号の①→③の順序で分解してください。

組立は、図の番号の③→①の順序で組立ててください。

4) 注油

図中で、つぎの記号は、油の種類・量・注油箇所を示します。

・種類

- セイコーウォッチ油 S-6
- モービスA
- モービスV

・量

- 多めに
- 標準量
- 極く少量
- ⊗ 注油禁止箇所



ムーブメント裏



ムーブメント裏



- 1段目、フリー
- 2段目、右 日修正
左 曜修正
- 3段目、針合わせ
(電源スイッチ OFF、秒規正)

電池時計を修理する際の注意

1. 耐磁ピンセット（真鍮など）をご利用ください。



耐磁ピンセット



通常のピンセット

2. コンプレイトやムーブメントでの脱磁はしないでください。



3. 電子部品の洗練に注意してください。



金属アロック

布にフトレオンやダイヤモンドをふくませて拭いてください。
洗練はさけてください。

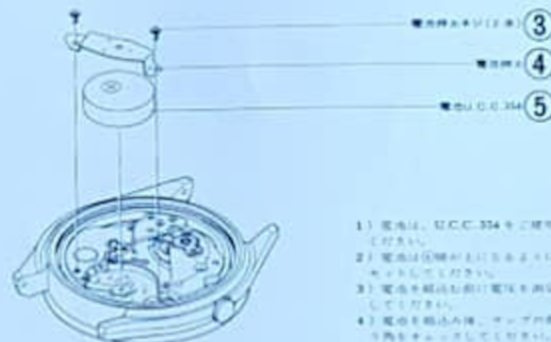


コイルアロック

フトレオン、ダイヤモンドで5分以内の洗練をしてください。
布で拭くことはさけてください。

禁止事項

タリウム・アンチムに鉛粒を混入してありますので、タリウム・アンチムを顔面に付着させたり、タリウム・アンチムの粉塵が目、喉に付着してはなりません。



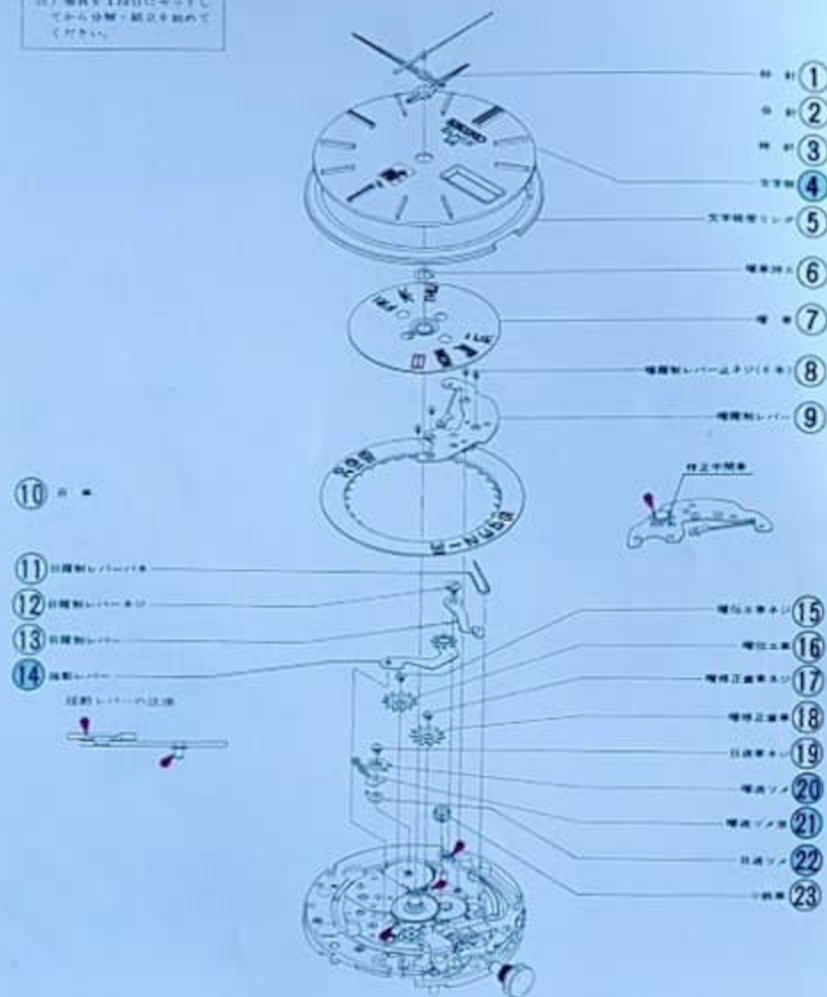
- 電池は、E.C.C.354をご利用ください。
- 電池は反時計回りにするように入力してください。
- 電池を挿入の際は電圧を測定していただけます。
- 電池を挿入の際は、ケースの裏面をキレないようにしてください。

電池取り回し上の注意

- 電池は、湿度が比較的低い湿気の少ない場所に包装したまま保管してください。
- 使用済の電池は、必ず廃棄してください。（万一、そのままにしておきますと新しい電池と見分けがつかなくなりやすい。）
- 非金属のピンセット（竹製・プラスチック製）または、指サックをして取扱ってください。
- 乾いた布でよく拭いてから使用してください。

（注）電池を火の中に入れてたり、直接ハンダ付けすると過熱しますと、爆発の危険がありますので絶対にさけてください。

⑫ 巻戻し1段目にセットしてから分解・組立を始めてください。



機械台

分解組立には、セイコーウォッチ機械台セットから(44, 51, 56, 62用)をご利用ください。

巻戻しの仕方

1. 裏のアタリから巻戻しを抜く場合

- ① 巻戻しを1段目に引き出してください。
- ② 時計板外側よりオシロウの一部が見えますので、ピンセットで押して巻戻しを抜いてください。

2. 文字板側から巻戻しを抜く場合(一体式表盤)

- ① 巻戻しを1段目の状態にしてください。
- ② 文字板外側よりオシロウの一部が見えますので、ピンセットで押して巻戻しを抜いてください。



④文字板の巻戻し



日曜動レバーの取付け方・はずし方

日曜動レバー押エッジを回して日曜動レバーを取りはずしてください。



②・③・④日・増進ツメの取付け方



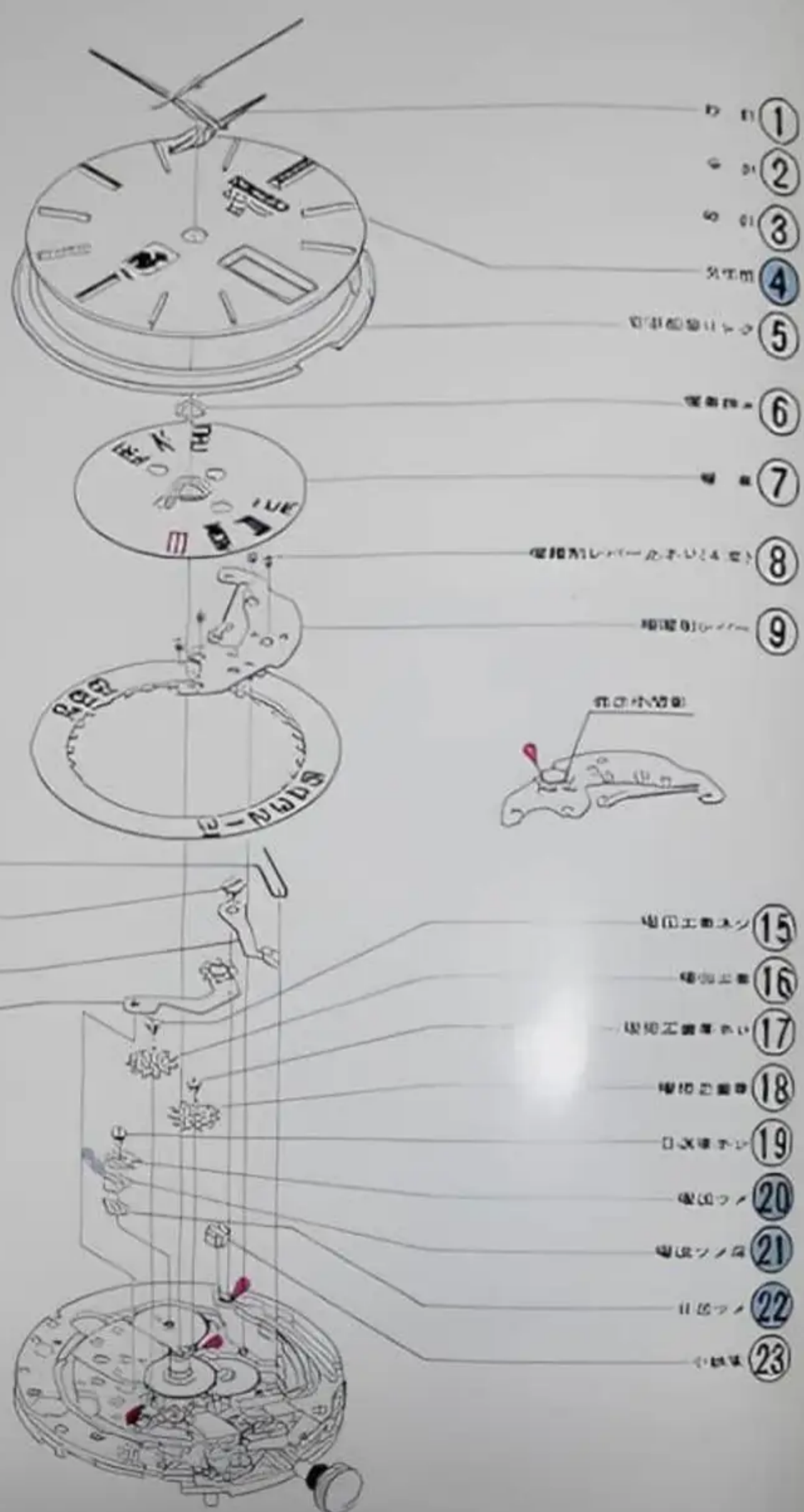
①日正字調整ツメを回す

②増進ツメを回す(向きは裏向き)

③増進ツメを回す(向きは表向き)

0723A カレンダー機構

時計の軸を140日ジャンプし
てから調整・検査を始める
ことである。



- ⑩ 針
- ⑪ 日曜月曜レバー (日・月)
- ⑫ 日曜月曜レバー (日・月)
- ⑬ 日曜月曜レバー (日・月)
- ⑭ 日曜月曜レバー (日・月)

- ⑮ 曜日調整ネジ
- ⑯ 曜日調整ネジ
- ⑰ 曜日調整ネジ (日・月)
- ⑱ 曜日調整ネジ
- ⑲ 日次調整ネジ
- ⑳ 曜日調整ネジ
- ㉑ 曜日調整ネジ
- ㉒ 日次調整ネジ
- ㉓ 針軸

●電源の組み込み時の注意
 ①組み込み前に必ず電圧を測定してください。
 ②内れがある場合は正しい形で接続方法
 ③電圧の電圧の取扱いには電源の交換方法を
 してください。

●スイッチパネル組み込み時の注意
 ①スイッチを3段階にして分解組立を
 ②スイッチパネルには絶対に油をつい
 ③スイッチパネルとスイッチ本体の間隙
 スイッチ3段階で2段階の間隙が



●回路ブロック



●コイルブロック



●アオリ調整



24 電源端子の付着

25 電源端子

26 電源端子

27 電源端子の付着

28 電源端子の付着

33 電源端子

34 電源端子

注1
 油類を塗布する場合は
 絶対に油を塗布しては
 ください。

●ランプ駆動用コイルの取り付け



●コイル(5)は磁石(6)の半分程
 度あること。
 ●磁石(6)の回転軸(7)は軸蓋(8)
 までにはコイル(5)を巻いて取
 り付けてください。

●ランプの持ち方



●ランプのガラス
 一部(軸蓋の取付
 部)を除いては
 触らないで
 ください。



●上下一緒に持たな
 いでください。ラ
 ンプ破裂の原因と
 なります。

×



電源コイルブロック(29)

電源コイル(30)

コイルブロック(31)

コイルブロック(32)

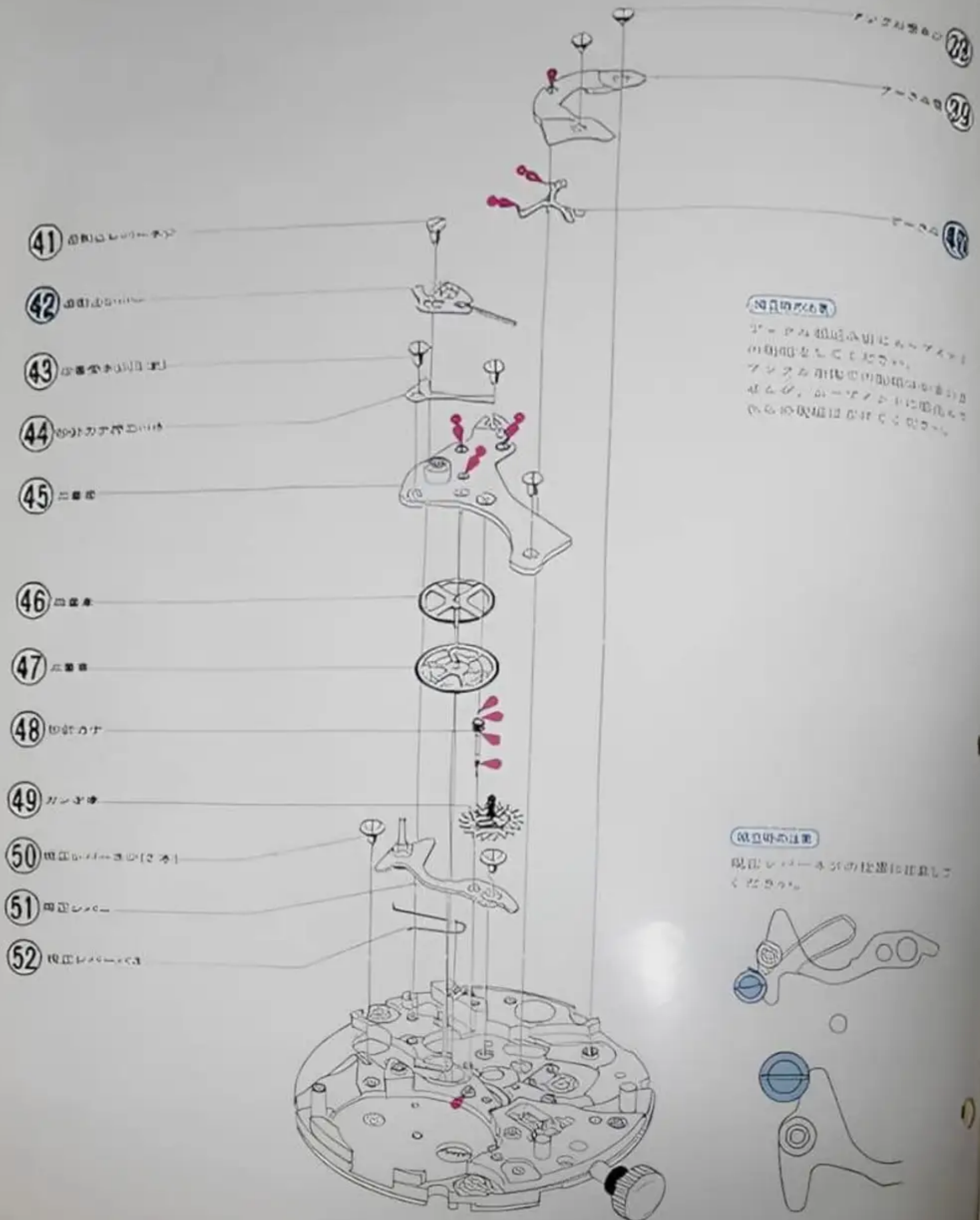
ランプ(35)

ランプ(36)

ランプ(37)

絶対に接触しないでください。

ランプ(38)



41 歯車

42 歯車

43 歯車

44 歯車

45 歯車

46 歯車

47 歯車

48 歯車

49 カン

50 歯車

51 歯車

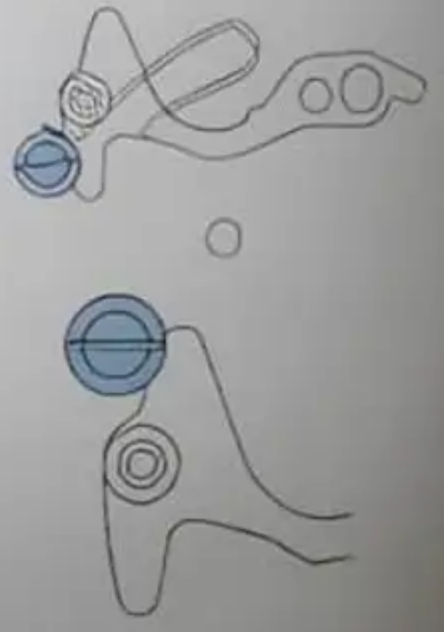
52 歯車

組立時の注意

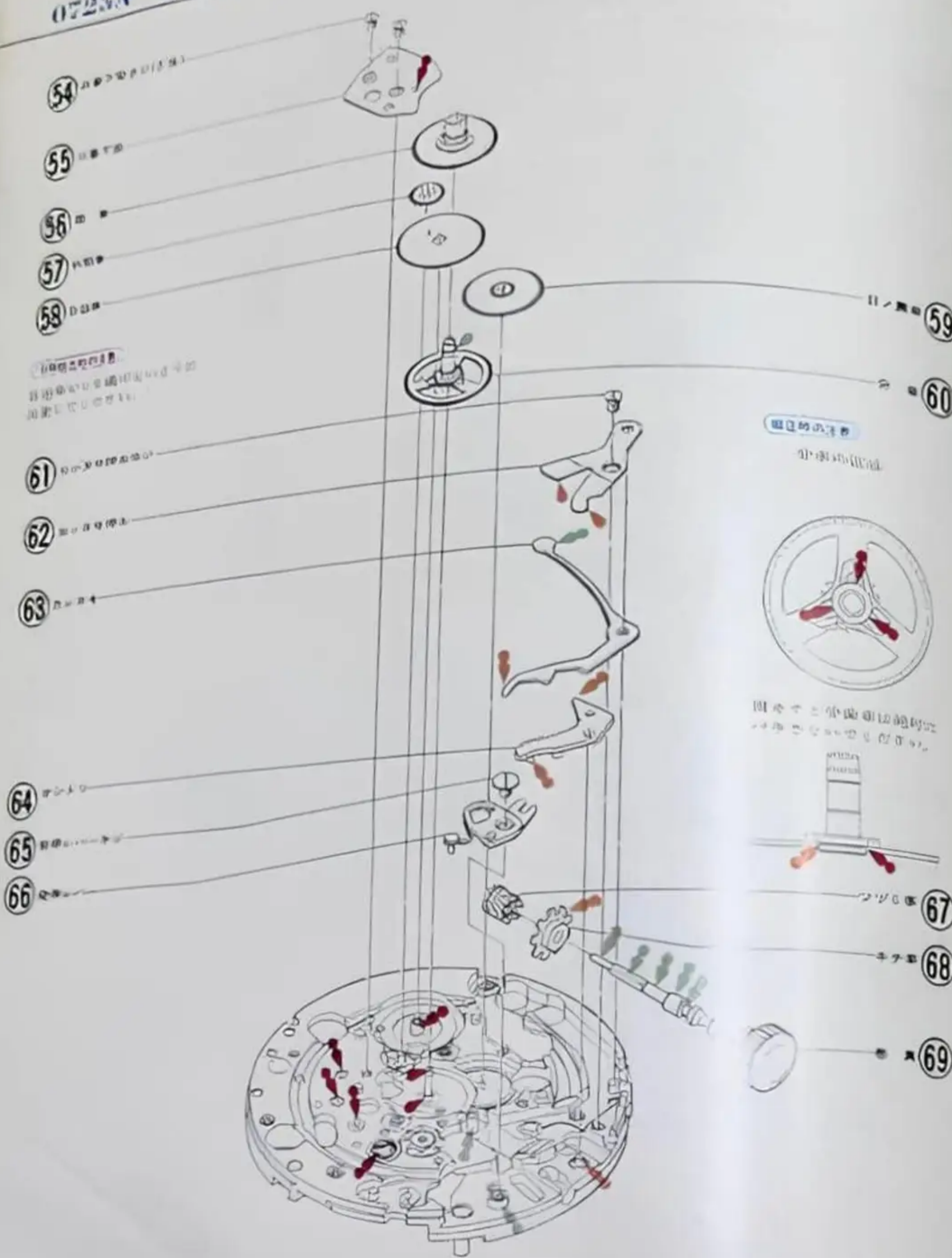
この部品は、組み立てる前に必ず
のり付けをしてください。
アクリル接着剤の硬化剤は必ず
混ぜ、のり付け前に必ず
よく混ぜておいてください。

組立時の注意

現在レバーの位置に注意して
ください。



0723A 切换機構



54 上蓋 (Top Cover)

55 彈簧 (Spring)

56 墊圈 (Washer)

57 螺絲 (Screw)

58 螺絲 (Screw)

注意事項 (Notes)
 1. 螺絲的規格請參閱零件目錄。
 2. 螺絲的規格請參閱零件目錄。

61 彈簧 (Spring)

62 彈簧 (Spring)

63 螺絲 (Screw)

64 螺絲 (Screw)

65 螺絲 (Screw)

66 螺絲 (Screw)

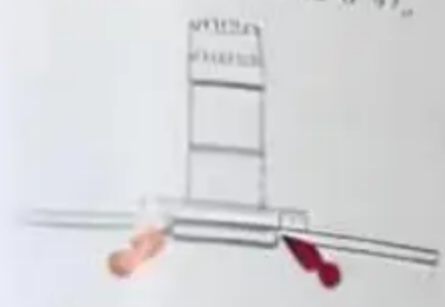
59 螺絲 (Screw)

60 螺絲 (Screw)

圖中的零件
 均與零件目錄



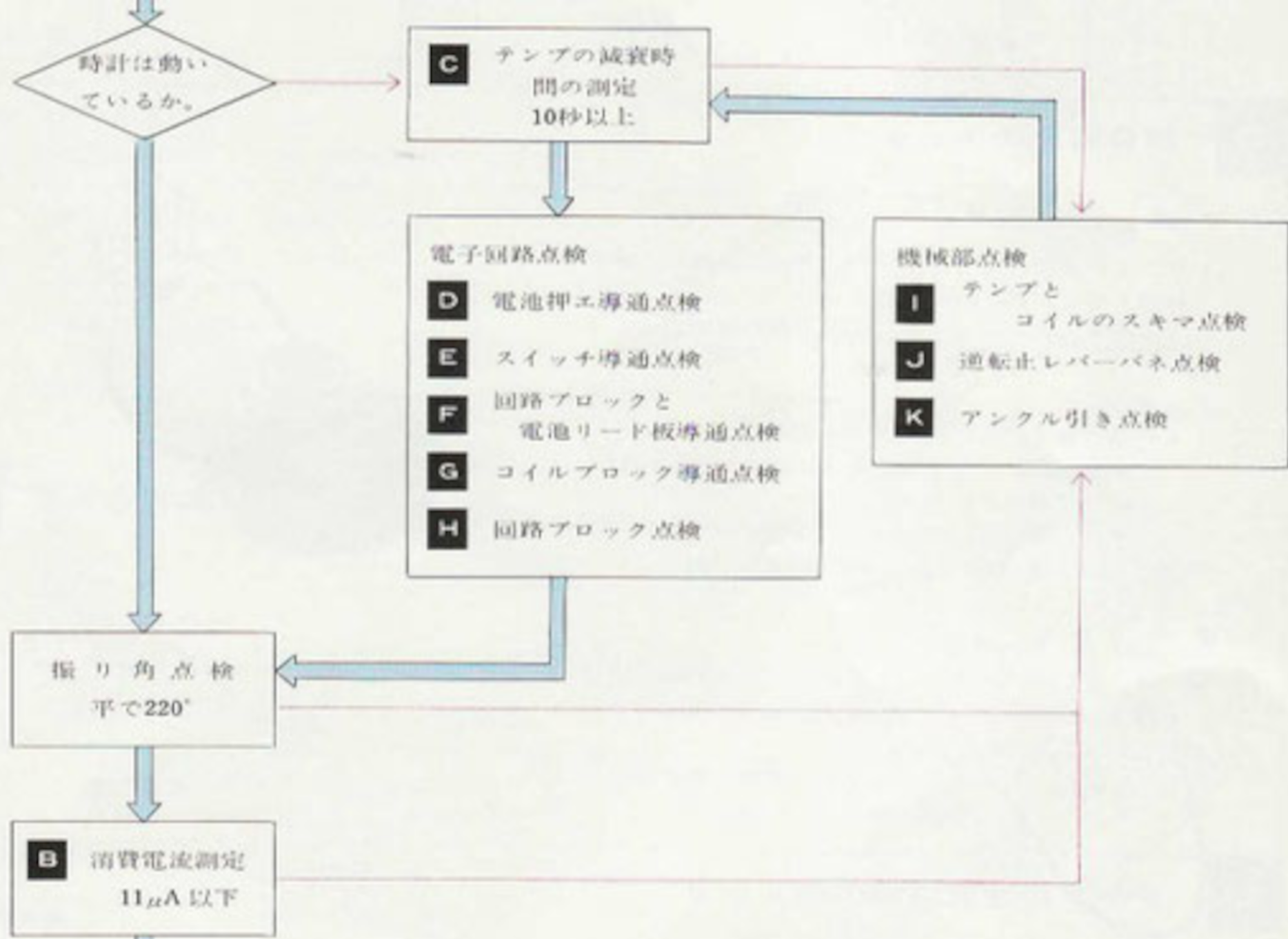
圖中所示各零件的規格
 均與零件目錄

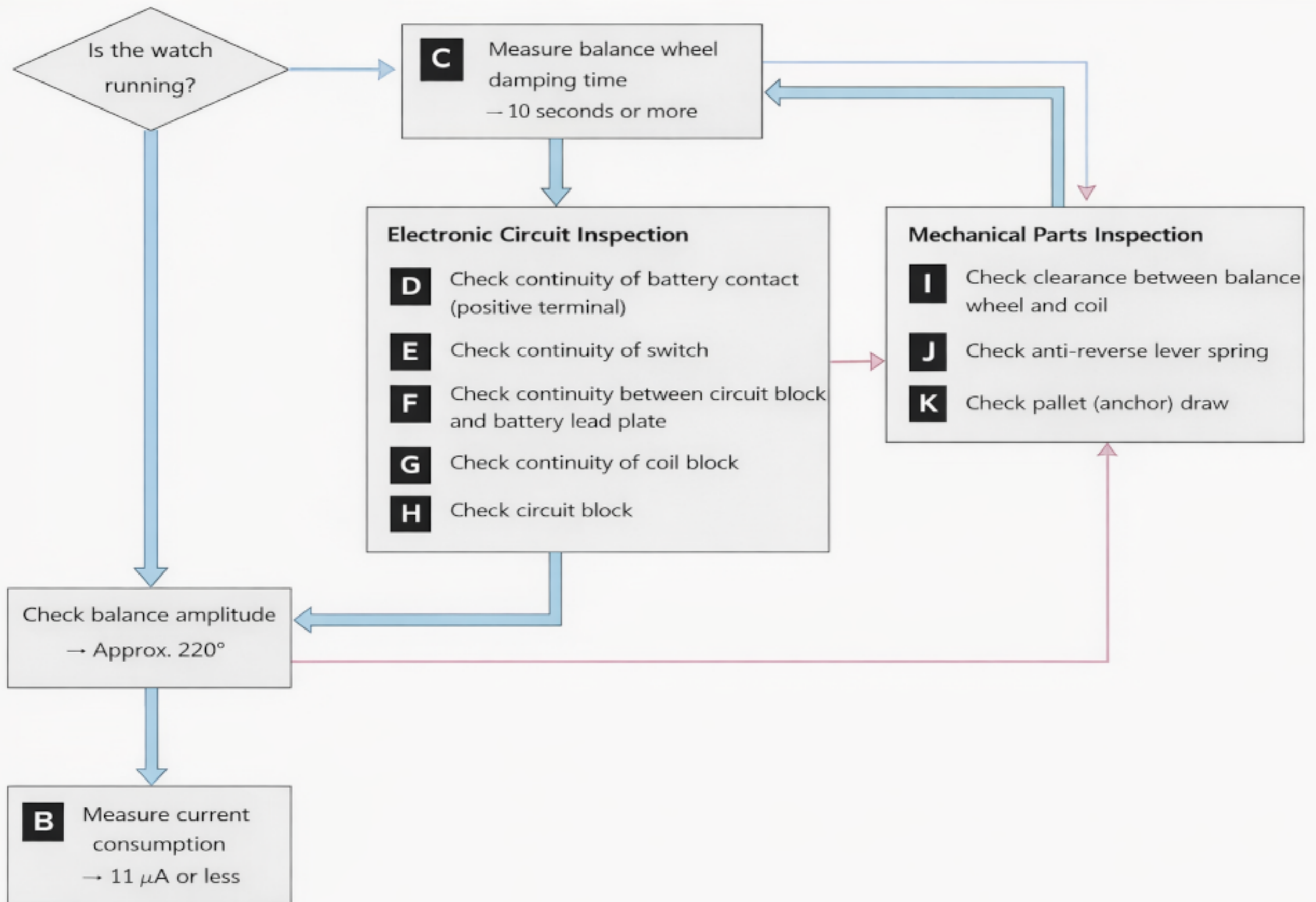


67 螺絲 (Screw)

68 螺絲 (Screw)

69 螺絲 (Screw)





④2 逆転止レバーの調整

①まず、アンクルを停止状態にしてください。(図-1)

②逆転止レバーネジ(A)をゆるめます。

③(B)のピンを回して、スキマbを調整します。

スキマb：バネ厚み(t)～バネ厚みの2倍(2t)

④逆転止レバーネジ(A)を締めます。

⑤(C)のピンを回して、スキマCを調整します。

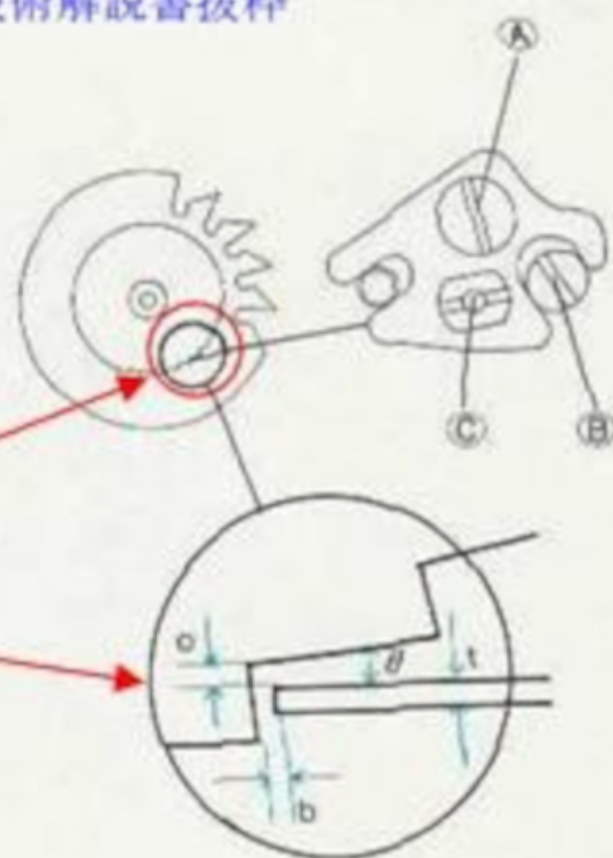
スキマC：0～バネ厚み(t)

⑥ガンギ車、全歯についてスキマb, cをチェックしてください。

⑦また、ツメ歯車歯の斜面とツメ止バネには図のように角度(θ)があること。平行ではないこと。(図-5)



技術解説書抜粋



42 Adjustment of the anti-reverse lever

① First, stop the balance wheel (set the watch so it is not running). (Fig. 1)

② Loosen the anti-reverse lever screw (A).

③ Using the pin (B), adjust the clearance **b**.

Clearance **b**: $2 \times \text{spring thickness (t)} - \text{spring thickness (2t)}$

④ Tighten the anti-reverse lever screw (A).

⑤ Using the pin (C), adjust the clearance **C**.

Clearance **C**: $0 - \text{spring thickness (t)}$

⑥ Check the clearances **b** and **c** with the escape wheel and the entire train.

⑦ Also, the tooth flank of the escape wheel and the stop spring must

be at an angle (θ) as shown in the figure. They must not be parallel. (Fig. 5)



技術解説書抜粋

